

PRESS RELEASE (2018/10/31)

糸島市・九州大学・住友理工でフレイルチェックを開始 ～産官学協働で糸島市民の健康長寿を目指す取組～

九州大学は、糸島市および住友理工株式会社との3者による連携協定の枠組みを活用し、「九州大学ヘルスケアシステム LABO 糸島（愛称：ふれあいラボ）」でフレイル（虚弱）を簡易に測定するフレイルチェックを開始しました。フレイルとは、年齢を重ねるとともに心や身体の余力が衰え、ストレスに対して抵抗力が弱まっている状態です。わが国ではフレイル予防を市区町村の支援事業の一つとして位置づけ、フレイルの検査とその予防に取り組むことを推奨しています。

フレイルは「体重減少」「疲労感」「歩行速度低下」「筋力低下」および「活動性低下」の5つの判定項目のうち、3つ以上に当てはまることと定義されます。2017年、我々九州大学と糸島市は、65～75歳の糸島市民966名を対象にフレイルの実態調査を実施しました。その結果、フレイルの前段階である「プレフレイル」の該当者は約40%、「フレイル」の該当者は約2%でした。

フレイルを予防するには、一人ひとりがフレイルをチェックし、適切な予防法を知り、取り組む必要があります。そこで、糸島市では「フレイルチェックシステム」を市民の身近にある公共施設に常設しました。このシステムでは、60歳以上の市民を対象に、1時間に最大2名を検査する少人数制を取り入れ、看護師や専門スタッフがフレイルチェックを行い、フレイルの状態に合わせた種々の予防事業へ参加を支援します。

フレイルの早期発見から早期予防まで、一連の流れを円滑に進められる体制が糸島市内に整いました。この取り組みが将来の要支援・要介護認定率の低下に繋がることを期待しています。



熊谷秋三教授



岸本裕歩准教授

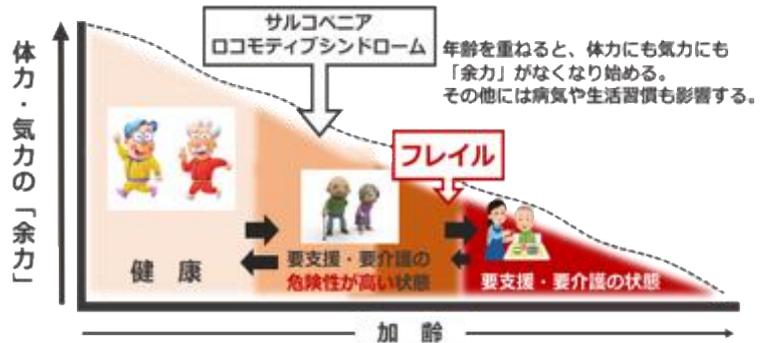


図1. 加齢に伴う余力の変化とフレイル

表. 糸島市の疫学調査に基づくフレイル頻度 (2017年)

人数 (%)	総数 (949名)	該当なし (539名)	プレフレイル (388名)	フレイル (21名)
全地区	949	539 (56.8)	388 (40.8)	21 (2.2)
志摩地区	226	127 (56.2)	96 (42.4)	3 (1.3)
二丈地区	256	143 (55.9)	105 (41.0)	8 (3.1)
前原地区	467	270 (57.8)	187 (40.0)	10 (2.1)



図2. フレイルチェック実施風景

フレイルチェックシステムの常設場所

名称：ふれあいラボ（九州大学ヘルスケアシステム LABO 糸島）

住所：糸島市志摩初1番地 糸島市健康福祉センターふれあい1階

ホームページ：https://www.fureai-labo.jp/index.html

【お問い合わせ】 キャンパスライフ・健康支援センター 教授 熊谷秋三
電話/FAX: 092-583-7853
Mail: shuzo@ihs.kyushu-u.ac.jp